

洛東の丘

～校長室から 洛東生の皆さんへ～
令和2年12月18日(金)第26号

今週の四字熟語

不言実行 (フゲンジツコウ)

言葉で告げずに、実行しやり遂げること、また、だまってやるべきことをやること

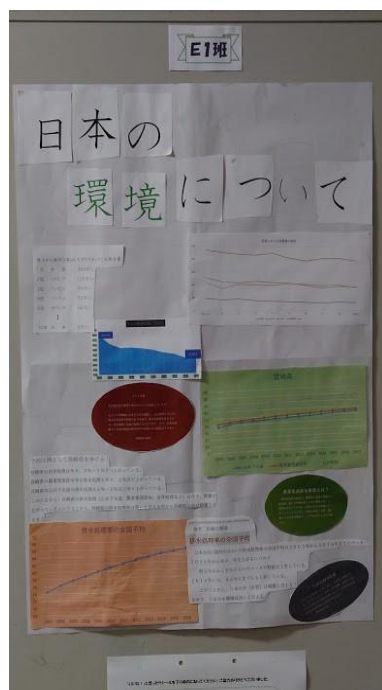
☆あと1週間☆

長い2学期もあと1週間です。最後まで気を抜かずやりきりましょう！

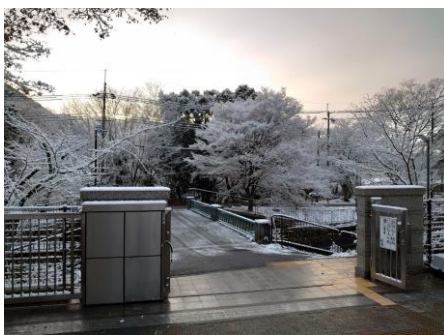
手洗い・うがい・手指消毒、そしてマスク着用や3密を避けるといった基本的な感染防止対策を続けていますか？ 京都もじわじわ感染者数が増加しています。以前にも伝えたとおり、いつ誰が感染してもおかしくない状況です。引き続き警戒感や緊張感を失わずに行動するようにお願いします。



コンピューター教室前に、2年生情報演習の発表が掲示されています。現代の諸問題についてまとめてくれていますので、皆さん是非閲覧してください。



いいね
シールを
貼ろう！



17日（木）
今年初めて着雪がありました。

♠主役♠

演劇や映画には配役がある。誰を主役にして脇をどう固めるか、どのようにして決定されるのか、その業界人ではないので推測の域を出ないが、間違いなく演出家や監督のセンスは問われるだろう。素人の勝手な評価だが、小説がドラマ化や映画化されたとき、イメージしていた配役と違いがっかりしたことや、演出や役者の演技に魅せられて小説を手にしたこともある。つまり、ストーリー・配役・演出・ロケ地などそれぞれ大切なことが抜群に絡み合ったとき、「良い作品」となるのだと思う。

ところで、「人生」を「ステージ」に見立てる場合がある。とすると、人の一日は「ステージ」のワンシーンと言うことになるが、皆さんは自分の「ステージ」に「主役」として凛と立っているだろうか。日々を演じきっているだろうか。自分が主役の「ステージ」なのに知らず知らずのうちに「脇」にまわっていたり、人の「演技」をボーッと眺めているだけになってはいないだろうか。また、せっかくなつかんだ「高校生」という「シナリオ」を途中で投げやったり、「セリフ」を忘れたりしていないだろうか。

もちろん、日々の生活に前もって決められた「シナリオ」や「セリフ」があるわけではない。しかし、高校生として、そして高校生なら人として持っているべきあたりまえの「行動」や「対応」そして「言葉」や「振る舞い」などがあるはずだ。また、それぞれが描いている次のステージでの目標に向けて、今やっておかねばならないことがあるはずだ。そういったことをないがしろににして、「今さえ良ければいい」「自分さえ良ければいい」などと受け取られる言動しかできない人をみると、自分の「ステージ」に「主役」として立っているとは言えず大変残念でならない。皆さんには、一人ひとりの大切な「ステージ」を「主役」として演じきってほしい。

では、皆さんが「主役」なら私たち教職員は何か。「脇役」ではない。「監督」であり「ディレクター」である。時には「美術さん」「大道具さん」かも知れないし、「カメラマン」か「時代考証」かも知れない。つまり「キャスト」ではなく「スタッフ」だ。皆さんがそれぞれの「ステージ」で思う存分力を発揮できるように、ときには「演技指導」し、ときには「時代背景などをふまえて所作を伝授」する。またあるときは「アドリブ」を優しく見守り、あるときは「軌道修正」を指示することもある。「高校生活」という「シナリオ」が終わっても、次の「ステージ」で皆さんが「主役」として輝きを放てるようにいつも祈っている。